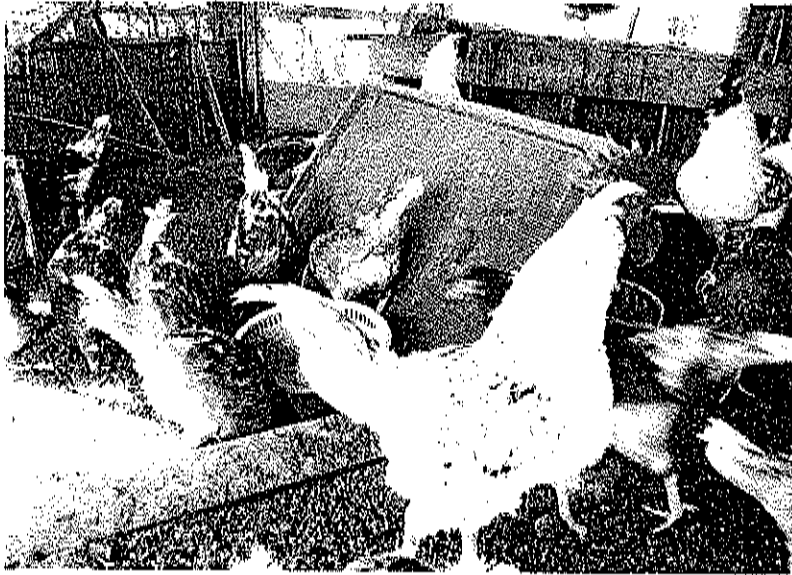




# 卵高騰なぜ

# 大規模・密飼い鳥インフル大流行



健康に配慮して平飼いされている鶏

## 1面のつづき

鶏卵高騰の大きな要因は、配合飼料価格の高騰と鶏などに感染する高病原性鳥インフルエンザの急拡大です。全産たまごの担当者は「高騰の一番の要因は鳥インフルエンザだ。全国で1割近い採卵鶏が処分されている。この影響は大きい」と言います。鳥インフルは、今シーズン、例年より早い昨年10月から感染が広がり、今月7日時点で、26道県で80例発生。採卵鶏では、全国で飼われている約1億8千万羽のうち、約1600万羽以上が

殺処分の対象となりました。鳥インフルエンザはパンデミック（世界的大流行）が続いており、中東やオセアニアを除いた各地で発生。アメリカでは、2022年2月以降、全50州のうち48州で発生し、約5800万羽以上が殺処分されました。

「この状況は、農家の責任ではありません。農家はできるだけ鶏が健康であるように努力し、ウイルスの侵入防止などの手を尽くしています」

業界誌の記者も「感染した養鶏場はどこも国の衛生基準を守っていた」と言います。

伊豆さんは「回復には数年単位でかかるかもしれませんが、回復までの間も、餌代、人件費、水光熱費などがかります。経営が続けられるよう、再開・継続へ向けた国の支援が必要だと訴えます」。

殺処分の対象となりまして。鳥インフルエンザはパンデミック（世界的大流行）が続いており、中東やオセアニアを除いた各地で発生。アメリカでは、2022年2月以降、全50州のうち48州で発生し、約5800万羽以上が殺処分されました。

「この状況は、農家の責任ではありません。農家はできるだけ鶏が健康であるように努力し、ウイルスの侵入防止などの手を尽くしています」

業界誌の記者も「感染した養鶏場はどこも国の衛生基準を守っていた」と言います。

伊豆さんは「回復には数年単位でかかるかもしれませんが、回復までの間も、餌代、人件費、水光熱費などがかります。経営が続けられるよう、再開・継続へ向けた国の支援が必要だと訴えます」。

模化せざるを得ません。結果として密飼いになるのです。こう指摘するのは、長野県岡南町で約700羽の鶏を飼育し、卵を出荷している「みたほら農園」代表の伊豆より夏さんです。

密飼いでは、鶏舎の換気が悪くなったり、十分な運動スペースがなかったり、本来、鶏が健康に暮らせる環境とは違う状況になります。今の鳥インフルの拡大は、その影響があるのではないかと伊豆さんはみています。

養鶏場は、通常でも採卵の水準を一定に保つためにひなを計画的に入れ替えます。殺処分をした農場によるひなの確保は、初生ひなの生産を急に増やすことはできず、ひな入れ替えの需要もあり、困難だとみられます。